

人口の減少に反比例して認知症患者は年々増加しております。2025年の推計では全国で730万人になる見込みで、簡単に言うと「高齢者の約5人に1人が認知症」という時代になり、かつては考えられない社会となります。

このような中、国は平成27年に認知症の人が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らせる社会の実現に向け、「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(通称:新オレンジプラン)を策定、更に昨年(令和元年)6月には、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指した施策を推進する「認知症施策推進大綱」が取りまとめられました。今後はこれらを基に、介護保険を含む諸制度の改正がされていく見通しです。

本町においても、認知症の方が増えている現状から普段の生活の場面で、一見普通に見えていても「不可解な行動や言動をする」方が増えていきます。

例えば...

● (事実性に乏しいが) 泥棒に入られた、お金が無くなったと訴える。



● (これまでには見られないが) 電話などで何度も同じ確認をする。



● 身だしなみがおかしい。清潔感がない。



など...

認知症は誰もが罹患する可能性がある病気です。自分や家族、あるいは友人や知人がいつ患うかわかりません。ですから、他人事として無関心でいるのではなく、“自分たちもなり得る問題である”という認識を持つことが大切です。

認知症の方との地域生活が当たり前の時代になるにあたり、認知症を正しく理解し、社会全体で地域生活を支援することが求められております。

このような状況から、認知症について正しく理解していただけるよう、認知症地域支援推進員と地域包括支援センターが共同で『上ノ国町 認知症ガイドブック』を作成しました。興味のある方は下記までお問い合わせください。



【上ノ国町 認知症ガイドブック 問い合わせ先】

上ノ国町高齢者等健康づくり総合交流センター内 認知症地域支援推進員 三国

認知症の方の約9割は自宅(地域)で暮らしたいと考えており、半数以上は自宅(地域)で生活しております。今後は更に増える見通しです。

「認知症になっても、本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく生活できるように」の意識が基本です。